

令和 5 年 10 月 20 日

浜田市議会議長

池田 幸 様

議員名 牛 尾 昭

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 5 年 10 月 10 日 (火) : ~ :

2. 研修内容

国産小麦を増やすか？

3. 研修先

スマート・テクノロジー協会

4. 調査経費

(1000 円

(経費内訳 円、 (円)

5. 調査研究活動の概要

おろし。別紙にて。



スマート・テロワール協会オンライン講演会第 22 回

10 月 10 日、19：00~21：00

自給率 1 割台!? 国産小麦を増やすには?

～生産現場に学ぶ 4 つの課題と対処策～

司会進行：藻谷浩介 氏 日本総研上席研究員。

講師 ① 染野 実 氏、茨城県で 20 の会社で研究会。

茨城県の認定品種、硬質小麦・ゆめかおりを栽培。

R5 年現在 1,000 トン生産、セブンイレブンに納品。その他は一般のパン屋、県内の学校給食 近隣の 5 県と取引をしている。

講師 ② 井狩篤士氏、会社経営、水田輪作、南のかおり栽培。

面積 は 300ha 作りすぎの無駄を省く。日本でインディカ米を作って外国で売るのはいい。ブロック栽培で、大豆、麦、米を作りセブンイレブンにおろしている。

講師 ③ 叶野幸喜氏、山形県、4 名で 20ha、50 トンつくる。

南部小麦といもを作る。小麦は、緑肥感覚で作ったがラーメンにむいている。ほとんど直販で 10 店舗におろす。香りがよく料理人に評判がいい。

儲け

染野氏：米に比べて 10 a あたりの投下労働力が少なくて済む。

井狩氏：米が儲からなくなって、悪くなったから、麦が儲かる。

叶野氏：儲けが少ないので、大豆、赤かぶ、ニンジンで利用、効率をあげている。

染野氏：小麦の品質基準一単一品種のロットが少ない一生産量が増えればよい。生産者の麦に対して一製粉会社が求めるものが違う。タンパク質が少ない物はダメ。

井狩氏：生産者ごとに成分分析し駄目な物は外す。イカリファームは、30 法人を束ねているが、課題は、保管庫がない。年間の倉庫のコストがかかる。自前の物流システムがない。

イカリファームの今後の取り組み

① 農協機能をもつ国産小麦のサプライチェーンの確立。

②10 年先をみたロードマップ作成。2025 年に 1000 トン、2030 年には 5000 トンを目指す。

叶野氏：小麦は、タンパク質少なければ使えない。

竹下氏(育種家)：小麦は、他の作物と違って公的機関が品種改良を行っている。民間は参入出来ない。

染野氏：儲からなくては意味がない。育種のスピードをあげて欲しい。

竹下氏：これ以上早くは出来ない。

井狩氏：市場で求めているものを作りたい。

叶野氏：米は作っていない。小麦は、現在、50 トンの生産量であるが仲間が増えたので、この地に合う庄内小麦の品種を求めたい。

昆氏（スマート・テロワール顧問）：10 a あたりの投下労働力に対しての収量はそばが一番高い。

考察

小麦の育種は専門機関が握っており、民間開放が求められる。それにより、消費者ニーズ対応が実現し、米のように食味の進化が実現可能となる。もう一つは、主食の安全保障から言えば、そば栽培面積の拡大が求められる。

以上報告します。 牛尾昭。